

表紙のごとば

銀嶺しろがね 由布を染める

—九五・冬

高校十二期 降魔 善子

藍で「由布」を染めている。アイ草から摂った染液からは、ブルーの濃淡は出せても絵具のような厚みはない。

透明に近い青を重ねて、すき透った由布の山を表現したいと思っている。力強いその山容をあらわすために型染の手法を用いる。型は渋紙を印刀で彫って作るが、その線の切断面で全ての質感を感じさせなければならぬ。由布の山を巡りながら四季折々の姿を描いているが、特に雪の由布が好きである。真白な雪の上に光と影がつくり出す色あいには澄んだ水の重なりのような藍染が良く似合う。

染という仕事自体、雪景色に似ている。染めは布に施され、日常に用いられるものだから、必然、はかなく壊れやすい。だからこそ、うつろいやすい美しさを大事に染め留めておきたいと思うのかもしれない。

大分上野丘高校同窓会誌 《創立110周年特別記念号》

1. 巻頭言.....首藤 信一
2. 新世紀へ輝け
3. 私の大中時代.....平松守彦知事
4. 夢のある人生を.....木下敬之助市長
6. 母校創立110年を迎えて.....野内四郎七
7. 羽ばたけ世界へ.....高山龍五郎
16. 大分上野丘高校110年のあゆみ
20. 中庭に青春像「風」.....工藤 忠義
22. 記念同窓ゴルフ大会.....秦野 勝久
24. 創立120周年に向けて新たな歩みを.....甲斐 公人
26. 恩師を訪ねて（岡野熊夫先生）
28. 恩師を訪ねて（楠本達男先生）
31. 親子三代記.....岡本 綾氏
34. 我ら青春の頃
45. 燃えてるOG.....加藤久美子
48. 燃えてるOG.....三浦 祥子
50. 大中部会だより
56. 第一高女だより
60. 第二高女だより
62. 阪神大震災を体験して.....（第二高女15回生）白根 直子
66. 碩友会だより
68. 郷里に転勤して.....秋沢 則夫
69. 高校部会だより
79. 私の作品.....（第二高女13・14回生）田中まりこ
80. 高校12期生セミナー
85. 第6回海外研修生体験談
88. 高校生のひろば
96. 続・新今昔物語 (35)野田丞治先生
(36)佐藤直子先生
102. 私の大学.....川野 祥子
103. 水のエッセイコンテスト「水とのつながり」.....衛藤麻里子